

DBS グループ・ホールディングス(DBS)

シティグループ台湾消費者向け銀行を統合。アジア富裕層拡大を背景に、ウェルスマネジメント業務強化が奏功

シンガポール | 銀行 | 業績フォロー

BLOOMBERG DBS:SP | REUTERS DBSM.SI

- 2023/12期3Q(7-9月)は、総収益が前年同期比15.6%増、調整後純利益が同17.8%増。純金利マージン拡大と経費率改善が貢献した。
- 今年8月にシティグループの消費者向け銀行業務の台湾部門を統合。預金、カード、投資を含む資産で台湾最大の外国銀行となった。
- アジア富裕層市場拡大を背景に、買収による海外市場拡大およびデジタル活用強化などを中心としてウェルスマネジメント業務を強化。

What is the news?

11/6発表の2023/12期3Q(7-9月)は、総収益が前年同期比15.6%増の51.92億SGD、経費率が同1.3ポイント低下改善の39.3%、貸倒引当金繰入額が同20.8%増の2.15億SGD、一時的要因を除く調整後純利益が同17.8%増の26.33億SGDだった。純金利マージン拡大が増収に貢献。経費率の改善が増益に寄与した。前四半期比は、総収益が2.9%増、調整後純利益が買収に係る統合費用の影響もあり2.1%減、貸出の質に係る9月末の不良債権比率が0.1ポイント上昇悪化の1.2%だった。

3Qの収益の主な内訳は以下の通り。①商業銀行の純金利収益は前年同期比23%増の36.84億SGD。9月末貸出残高が同2.1%減も、純金利マージン(NIM)が同0.52ポイント上昇の2.82%と改善したことが増収に寄与した。②商業銀行の純手数料・コミッション収益は同9%増の8.43億SGD。内、ウェルスマネジメント(WM)が同22%増の3.93億SGDと牽引したほか、カードとローン関連も増収に貢献。③商業部門その他の非金利収益は同8%増の4.99億SGD。④国債市場収益は同38%減の1.66億SGDだった。

How do we view this?

2024年通期の会社計画は、マクロ経済の減速および地政学リスクに伴う不透明感を受けて、純金利収益が前期並み(純金利マージン拡大と貸出残高減少のトレードオフ)、手数料収益はWMとカードが牽引、1桁台半ばの総収益増加率、1桁台後半の費用増加率、および前期並みの純利益としている。

同行は8/12、米シティグループの消費者向け銀行業務の台湾部門を統合。預金、カード、投資を含む資産で台湾最大の外国銀行となった。それを受けて、9月末は全体で貸出残高が6月末比1.0%増、預金残高が同2.2%増と拡大。統合後のDBS台湾事業は、クレジットカード口座数が統合前比5倍の300万以上、運用資産が同3倍の120億SGDとなった。

同行のWM業務は前四半期比で3Qが4.2%増と3四半期連続で増加。アジアにおける富裕層市場の拡大を背景に同行はWM事業の強化に取り組み競合他社を上回るペースで事業を拡大。他の大手金融機関のWM事業買収による海外市場のWM事業拡大、および富裕層ニーズに対応するためのデジタル活用に注力している。資産運用サービスを受ける際にデジタル・サービスを期待する傾向が強まるアジア富裕層の特徴に対応している。

業績推移

※参考レート 1SGD=111.10円

事業年度	2020/12	2021/12	2022/12	2023/12F	2024/12F
当期利益(百万SGD)	4,721	6,805	8,193	10,179	10,113
EPS(SGD)	1.86	2.66	3.18	3.92	3.87
PER(倍)	18.15	12.69	10.61	8.61	8.72
BPS(SGD)	21.42	22.41	22.12	23.30	24.83
PBR(倍)	1.58	1.51	1.53	1.45	1.36
配当(SGD)	0.87	1.20	1.50	2.02	2.21
配当利回り(%)	2.58	3.56	4.44	5.99	6.55

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg)

 配当予想(SGD) **2.02** (予想はBloomberg)
 終値(SGD) **33.75** 2023/11/6

会社概要

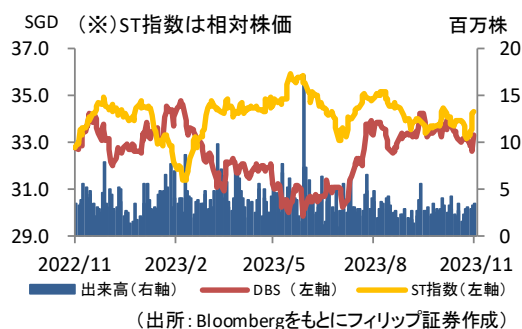
1968年にシンガポールの工業化推進と金融センターとしての発展に必要な開発資金の融資を行う目的のもと、「シンガポール開発銀行」として設立された世界的な金融サービスグループ。筆頭株主は政府系投資会社のテマセク・ホールディングス。世界の19市場に進出している。アジアの中心的な商業銀行として、中華圏、南アジア、東南アジアの3つの軸となる地域を掲げ、貿易や投資の仲介に取り組んでいる。

また、デジタル技術の活用にも積極的に取り組んでおり、雑誌「Euromoney」によって「世界最高のデジタル銀行」に選ばれ、「The banker」においても「デジタルバンキングで最も革新的な銀行」にも選ばれたことがある。

シンガポール本国では、マス・マーケットを含めた全顧客セグメントに商業銀行業務・投資銀行業務・証券業務のほか、リース・ファクタリングなどユニバーサルバンク・サービスを提供する。それ以外の地域では、コーポレート・投資銀行業務、中小・零細企業向けと信業務、ウェルスマネジメント業務に注力している。

企業データ(2023/11/7)

ベータ値	1.04
時価総額(百万SGD)	87,021
企業価値=EV(百万SGD)	-
3ヵ月平均売買代金(百万SGD)	91.6



主要株主(2023/11)

1. テマセク・ホールディングス	29.08
2. CAPITAL GROUP COMPANIES INC	4.93
3. VANGUARD GROUP	2.79

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

リサーチ部

笹木 和弘
 kazuhiro.sasaki@phillip.co.jp
 +81 3 3666 6980

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL:03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得る場合があります。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平14.1.25」に基づく告知事項>

・本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。